

豊水

Shizuoka Deep Seawater ARC NEWS

Vol. 2

静岡県水産試験場

駿河湾深層水水産利用施設

Suruga-Bay Deep Seawater Aquaculture Research Center
of Shizuoka Prefectural Fisheries Experiment Station

駿河湾深層水でサクラエビ長期飼育

サクラエビ *Sergia lucens* は十脚目サクラエビ科に属し、一生（約 15 ヶ月）を遊泳生活で過ごすエビです。本種は、駿河湾において唯一漁獲の対象とされ年間約2千トンの漁獲量がある水産上重要種です。サクラエビ漁業においてはプール制による資源管理が実践され、その生物学的情報は必要不可欠となっています。本種の資源生態調査事例は多数あるものの、飼育事例は数例しかなく生物学的情報に関して不明な点が残されています。特に漁獲物サイズである成体エビの飼育は困難とされており、過去の報告でもその飼育期間は半月程度と短く最長でも 30 日でした。そこで、駿河湾深層水を利用した成体サクラエビの飼育を試みました。

平成 16 年 5 月 12 日に由比港漁業協同組合所属船により漁獲されたサクラエビ（体長約 4cm、甲長約 1.1cm）4 個体を、1 リットル容ビーカーに 1 個体ずつ収容し飼育を開始しました。飼育水として 687m 深層水（15 に調温）を使用し、餌としてアルテミア（動物プランクトン）を与えました。飼育水の交換は、1 日おきにサクラエビを事前に用意した飼育

容器に移し替えることにより行い、採取日から 8 月 16 日までほぼ毎日、サクラエビの生残、脱皮状況を観察しました。

その結果、飼育 4 個体の生残期間は 17、17、37、96（8 月 16 日現在生残中）日で、今回深層水で飼育することにより大幅に生残日数が伸びました。特に最長生残個体は 8 回脱皮し、1 回の脱皮で甲長が約 0.1mm 成長することを確認しました。

今後、飼育をとおしてサクラエビの生態の一端を解明できる可能性があり、資源の有効利用と適正管理に役立つものと期待されます。



サクラエビとその脱皮殻

（岡本一利）